

「ささえ」

2015年1月発行 情報誌 第50号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田4395(福岡県立大学3号館1階)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyounet@sage.ocn.ne.jp

HP <http://npofukusiyogu.sakura.ne.jp>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます。

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします。

【商品名】自動排泄処理装置
尿吸引ロボ「ヒューマニー」



夜ぐっすり眠れるから
昼間頑張れる！



【発売元】ユニ・チャーム ヒューマンケア(株)

【商品名】床ずれ防止用ハイブリッドマットレス
「アルファブラ ソラ」



新発売
ハイブリッド型
車いす用クッション

【商品名】

アルファブラ
ソラ クッション



【発売元】(株)タイカ



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい…」

情報誌「ささえ 50 号」発行にあたり

NPO福祉用具ネット理事長 豊田 謙二（熊本学園大学大学院教授・博士）

15 世紀初め、「能」の大成者世阿弥、その著書『風姿花伝』には芸の上達を年齢ごとの節目に合わせた警句が盛り込まれています。その一つ。「返す返すも、初心を忘るべからず」の警句は、芸の上達への思い上がりや稽古をおろそかにする、と戒めているのです。世阿弥 4 5 歳ころの言葉と推測されます。

さて私たちは、この「ささえ」発刊第 50 号の節目を迎え、素直に喜びたいと思います。「ささえ」をここまで支え続けてきた事務局長大山はもちろんのこと、ボランティアスタッフの皆さん、また無償の原稿を提供していただいた方々、そうしたボランティアの厚き心情に、この紙面を借りて御礼を申し上げます。

この「ささえ」という情報誌名は、「支え、支えられて」という「ケア」の相互行為を念頭に、そのキーワードをきりとったものです。もちろん、NPO 法人が援助の必要な人を支え、逆にその人が NPO 法人の活動を支える、という経験は非常に大切なことであります。

と同時に、「ケア」は一方通行ではなく、相互行為である、ということも極めて重要なことであります。一方的援助を受けている人は、そうした一方通行を良し、とはしません。援助されながらも、人の役に立ちたい、と思っています。認知症ケアの研究をしていますと、そういうケースに何度も立ち会います。

ドイツでの認知症ケアに関する調査で、医療と福祉の支援において 19 世紀半ばに設置された、「ベートル」を訪ねました。支援のきっかけは癲癇のひとでした。また、ソーシャルワークの開始でもありました。施設のソーシャルワーカーが、施設の成り立ちや現在の施設概要について説明しました。もちろん、ナチスによる障害者の「安楽死」施策への施設の抵抗運動についても語られました。

そのソーシャルワーカーが自己紹介に次いで行なったことは、非常に印象的でありました。彼は両手をお尻の下において、椅子に座ります。両手・下肢が不自由というメッセージです。私は「あなたの助けになりたいのですが、あなたは許してくれますか?」、と尋ねます。私の支援・援助などは受け手の人の許しが必要です。彼はそう語り、その後にソーシャルワーカーとしての彼の職務を説明し始めたのです。

この「ベートル」の名称は「神の家」であり、キ

リスト教の精神において運営され、また多くのボランティア活動で支えられています。その施設の理念は「施しよりも仕事」、仕事への意思ある人のために、一人ひとりの仕事をつくること、気の遠くなる仕事、障害のある人、その人の意思に従うという徹底さなのです。先のソーシャルワーカーのメッセージは、他者が先にある、との説明だったのです。

他者と自己との関わりは、従来の共同体（＝コミュニティ）からネットワーク型へと転回しているように思えます。その傾向を促すのは人口減少であり、高齢化であり、さらに単身化でもあります。加えて、認知症の人が増加します。環境も激変しています。空き地、空き家、空き店舗など、環境に「空白」が生じます。人と人、人と環境に間が広く拡がりつつあるのです。

ネットワークの用語は、元来パソコンの上の情報を介したつながりでした。今日では、人と人との関係についても「ネットワーク」と使います。そのつながり目が「ウェブ」ですが、そこに多くのアクセスがあり、個々人がその「ウェブ」を介してつながります。

本 NPO 法人は、顔と顔との対面において仕事を継続してきました。今後、ネットワークの重要性がさらに拡大するように思えます。その先を読む能力は私にはありません。

私たちに言えるのは、「支え、支えられ」という個々人のつながり、という現実には愚直に付き合うことではないでしょうか。

新しい年を迎えます。「ささえ」を一層かわいがっていただきたく、また皆さんにとって新年が良き年でありますように、この紙面を借りてお祈りいたします。

明けましておめでとうございます。

情報誌ささえも、今回は記念すべき 50 号を発行することができました。

平成 14 年 11 月 1 日に設立してから、一度も発行を遅らせることなく継続できたことを事務局として大変嬉しく思います。

情報誌発行に際して、これまで、たくさんの皆様に無償で原稿を書いていただきました。印刷費用捻出のために広告を募ったこともありました。皆さんのたくさんのささへの基に 50 号を発行できていることに改めて感謝申し上げます。（事務局）

情報誌「ささえ 50 号」発行にあたり

NPO福祉用具ネット理事 松尾 清美 （佐賀大学医学部准教授）

1. NPO 福祉用具ネットの情報誌とは？

NPO 法人福祉用具ネットの情報誌「ささえ 50 号」の発行、おめでとうございます。そして、大山さんありがとうございます。理事の一人として、大山事務局長と力強く応援して下さる皆様の努力と功績に、心より感謝致します。身体障害を持って生活する一人として、この情報が多くの方々に、希望と勇気、発見、喜び、驚き、自立の心、介助負担の軽減、就職のきっかけなどに役立ててくれたことと思っています。人間は、様々な情報を得て、自分の生活改善や QOL 向上、悩みからの脱出や解決をするものです。今後共、正しい情報、福祉機器の情報、住環境改善情報、社会環境の情報などの発信を続けて行きましょう！ 遠方から、微力ながら進めて行きたいと考えています。

2. 生活環境改善に関する支援の考え方

高齢となり身体機能が低下したり身体に障害が現れると、これまでの生活環境では生活に不便を感じたり、何らかの生活行為ができなくなったりします。

例えば、歩いていたときは何の問題もなく玄関の上り框の段差を越えて家へ出入りしたり、トイレまで歩いて行って便器に座り排便したり、浴室で身体を洗って浴槽への出入りも行っていた方が、歩けなくなったとしましょう。すると、それまで行っていた普通の生活行為や動作が、歩けなくなり足で移動できなくなると、段差が多い環境では、前述したような移動ができなくなるため、車椅子を使った生活方法や外出方法を知らない場合は、「何もできなくなった」とか「もう自分一人では動けないし、介助が必要」などと思い込み、大きなショックを受けるのです。住環境改善支援を行う前に、この心のショックを癒すことや障害受容を支援することが大切です。これに関しては、周囲の家族や友人、医療職、福祉職などは生活方法や補装具や福祉機器情報、住宅改修情報などで支援していくことができますが、本人が心の中で障害を受け入れ超えて行くことが最も大切です。焦らずに気持ちを聞き取りながら支えていきましょう。そして、身体障害を受容して生活意欲が出現したら、補装具や福祉機器を試用し、モデルルームなどの住環境を経験してもらい、「住環境を改善すると自立できることが多くなる」という気持ちを作る支援を行うのです。そう簡単なことではありませんが、NPO 福祉用具ネットは、そうやって今日までできているのです。この NPO の中の様々な専門職がいるのですから、チームで支援するのです。

3. 生活環境整備とは？

補装具や福祉機器、日常生活用具などの情報や住環境に関する情報などの生活環境整備は、高齢者や身体障害者の日常生活行為や QOL を向上させるために不可欠な要素であり、街へ出かけるなどの社会参加する気持ちを作るための基本情報であり、なくてはならないものです。したがって、本人や家族の生活に対する考え方（障害や人生、生きがいなど）や人的要素に加え、福祉機器や住環境（物理的要素）の改善方法の情報だけでなく、その選び方や使い方、調整方法、社会資源などに関する情報、および福祉機器メーカーや取り扱い事業所、工務店などの情報も大変重要です（図 1）。使用する様々な福祉機器が、本人の身体機能や寸法、生活方法や住環境に適合すれば、自立（律）度の高い生活となり生活道具として活用されるようになるからです。そうなれば、介護負担を少なくできるだけでなく、自立度が高くなり、社会に参加する勇気や希望も大きくなっていき、生活の質は高まっていくと考えています。逆に、福祉機器が身体機能や寸法、生活方法、住環境などに適合していないと、道具として使用できないばかりか、本人や介助者への危険性を増大し、閉じこもりや寝たきり生活になってしまう可能性があるのです。

4. NPO 福祉用具ネットが担っていること

高齢者や障害者を取り囲む生活環境要素を物理的要素と人的要素でまとめた図を下に示します。円の内側は住宅内要素を示し、円の外側は社会環境や法律や条例、気候や習慣などを示しています。私達は、福祉機器や生活環境整備方法の選び方・使い方の情報を本人や家族、介助者、企業などへ伝達することと開発という役目を担っていると考えています。

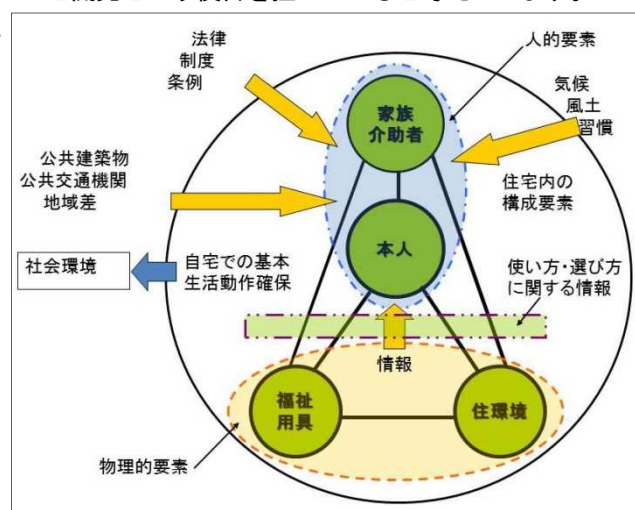
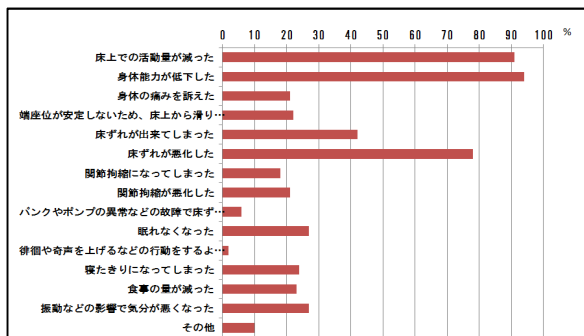


図 1. 生活環境要素と情報

福祉用具メーカーから介護現場の皆様へ アルファプラソラ&ソラクッションのご紹介 (株) タイカ ウエルネス用品部 部長 印南 裕之

1. これは仕方のないことなのでしょうか？

以前にもご紹介しましたが、全国のケアマネジャー、訪問看護師 576 名に「エアマットレスを使用しご利用者の状態が悪化したことはありますか？」というアンケートを実施したことがあります。その集計結果がこちらです。



この結果を見ていると、床ずれ対策用のマットレスと使用者の状態をマッチさせることの難しさや苛立ちを感じますね。

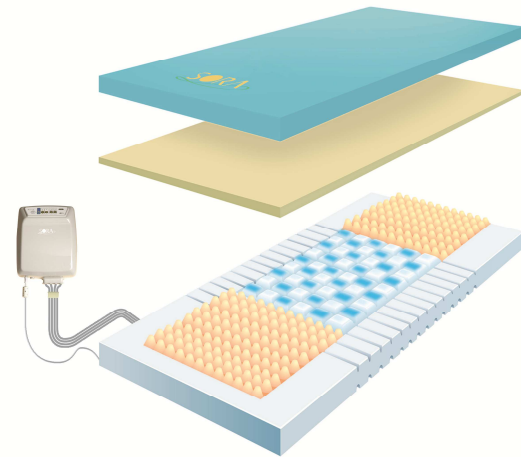
2. 矛盾する二つの要求

床ずれ対策に使用されるマットレスが備えていなければならない性能として、真っ先に挙げられるのが「体圧分散性能」です。それは、床ずれができる最も大きなきっかけ要因が「局所への圧迫」だからです。体圧分散性能を高めるためには、身体をマットレスに沈み込ませる必要があります。そのために柔らかい素材（ウレタンなど）や流動する素材（エアなど）が使われますが、この柔らかく不安定な状況が身体の動かしにくさ、緊張状態の継続、寝心地の悪さ、介護のしにくさなどを招くことが経験上解っており、先ほどのアンケートもこういった経験が反映された結果になっています。

マットレスは使用する療養者さんの生活の場ですから、床ずれ対策の目的で使用する場合でも、製品の上で行われるさまざまな生活動作を助けるよう工夫されていることが大切だと考えています。

3. ハイブリッドという解決策

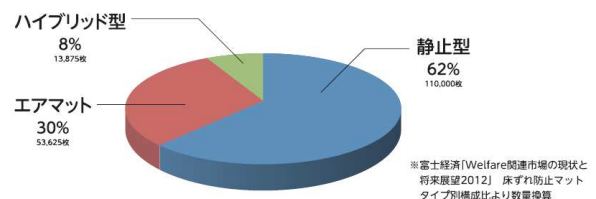
体圧分散性能に長けるエアマットレスと、安定性や快適性に長ける静止型マットレス。この2つを組み合わせたハイブリッド構造である『アルファプラソラ』は、先述の矛盾した2つの要求に応え、体圧分散性能、安定性、快適性を兼ね備えることを可能にしました。



『アルファプラ ソラ』

体重が最も集中する腰の部分に搭載されたエアセルは、一般的なエアマットレスよりも膨縮による圧力変化が小さく、常に低圧を維持します。また、ウレタンフォームを適所に組み合わせることで安定性や安全性を向上させ、動きやすさや寝心地の良さを備えています。この『アルファプラ ソラ』が2010年に発売されると、医療・介護市場のマットレスにおける「ハイブリッド型」というカテゴリーが急成長し、その後わずか2年で、市場の10%近くがこのハイブリッド型に切り替わっています。

床ずれ防止用具市場のタイプ別構成比(数量ベース)



4. 欲張りしましょう！

床ずれリスクを持つ療養者さんの状態や環境は、療養者さんの数だけ種類があります。そういった方々の生活の場であるマットレスに期待されるものも多岐にわたるということです。体圧分散、動きやすさ、安定性、寝心地、痛みの緩和、安楽、姿勢調整、変形への対応、医療行為や介護のしやすさなど。一方を優先して一方を諦めるのではなく、さまざまな要望に同時に応えられる製品を探しましょう！『アルファプラ ソラ』もぜひお試しください。

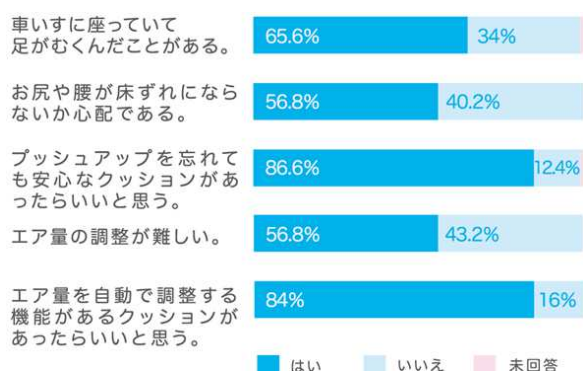
5. アルファプラ ソラの導入事例

大阪府の看護師 S.D. さんの導入事例をご紹介します。
「体圧分散と動きやすさを一挙に解決できました」

呼吸器病棟の患者さんの中には、仰臥位では呼吸が苦しくマットレス上でも座位で過ごす時間が長い方がいます。今までは、座位での床ずれ発生リスクを考慮してエアマットレスを使用していたのですが、患者さんが一人で動く→不安定で危険→静止型マットレスにする→座位時の十分なケアができない→床ずれができる→エアマットにする、という堂々巡りとなりマットレスの選択に苦慮していました。この相反する問題を解決できるマットレスがないかということで、『アルファプラ ソラ』を導入してみたところ、体圧分散と動きやすさを両立し床ずれ予防と患者さんの ADL を守ることに繋がりました。今までは静止型、エアマットレスそれぞれに不安がありましたが、今では安心できています。

6. 車いすクッションにもハイブリッド

車いすを長時間使用する方 211 名にアンケートを実施したところ、次のような回答を得ました。



車いすを長時間（2時間以上）使用する方 211名

床ずれが心配な車いすユーザーさんの多くは、体圧分散性能に優れている静止型エアクッションを使用しています。しかし、エア量の調整が難しいため、適正な状態で使用しているユーザーさんは意外と少ないことが判っています。また、静止型エアクッションを使用していても足のむくみは発生しますし、プッシュアップも必要です。アラームをセットしたりなどしながらプッシュアップを忘れないように気を付けていますので、仕事や娯楽に集中できないという方も多いようです。アンケート結果にはこういった心配や悩みがよく表れています。

『ソラ クッション』は『アルファプラ ソラ』のハイブリッド構造を応用した車いすクッションです。エア量を自動で調整し、常に適正な体圧分散を維持し、また、このエアセルの膨縮による適度な刺激がプッシュアップと同じような効果を発揮するため、足のむくみの心配を軽減します。



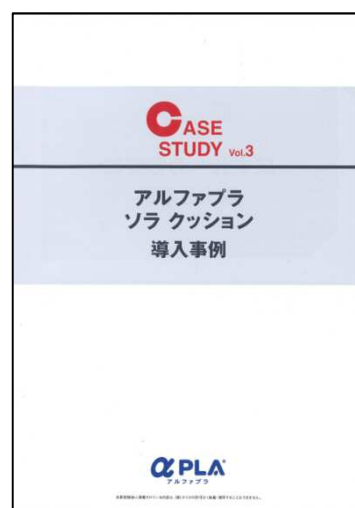
『ソラ クッション』

『アルファプラ ソラ』譲りのトップフォームによって安定性が高く、姿勢管理がしやすいのも特徴です。バッテリー式ですので邪魔なコードもなく、2時間半の充電時間で 15 時間の連続使用ができますのでアクティブなユーザーさんにも使いやすい製品です。

『ソラ クッション』もこれまでなかったカテゴリーを切り開いた製品ですが、すでに多くの導入事例があります。事例集をご希望の方はご連絡をいただければお送りします。

事例集請求先→タイカ ウエルネス用品部

TEL 03-5648-6630



7. 療養者さんの豊かな暮らしのために

2025 年には日本の高齢化率は 30%を超える予定です。その対応策として、医療の機能分化や地域包括ケア構想がすでに進んでいます。療養者が在宅で安心できる豊かな暮らしを送れるよう、声にならない声にもしっかりと耳を傾けて、要望や期待をカタチにしていきますので、皆さんからも「欲張った要望」をどしどしお寄せください。

西日本国際福祉機器展を裏側から体験レポート

(株) cocotama 代表取締役 佐々木寿生

西日本福祉機器展にはじめて参加して

11月6日(木)8時30分福岡県立大学駐車場に車を停めたとたんに電話が鳴った。大山さんからだった。「佐々木さん！今どこ？」、私はちょうど良い時間だったかと思いつつ「今、着きました」と答えた。

「え？どこに？」、「今、福岡大です。」「あー、じゃあ、もう出発してるから戻る。」と言われた。

「……え？」、「やっぱり遅かった！」と後悔することとなった。これが、私が参加する初めての福祉機器展での出だしである。

ここで、なぜ私が福祉用具ネットさんのお手伝いをしようと決められたか、その理由について、出会いも含めて少し話しておかなければ分かって頂けないだろう。

私はカウンセリングや研修などをコミュニケーションやメンタルヘルスという切り口で、個人・企業等に行っており、人間関係の構築などについて社会福祉法人施設で研修を行ってはきたものの、少なくとも介護現場からは縁遠い仕事をしてきたものである。

そのわたしが“NPO 福祉用具ネット”という名前を知ったのは、今年の5月に遡る。

私の事務所が入っているビルに同様に間借りしている団体NBC(ニュービジ 社協議会)というところがある。予てからお世話になっている方がおり、その推薦で九州経済産業局が昨年7月に立ち上げたHAMIQ(九州ヘルスケア産業推進協議会)に参加することとなった。

何度かセミナーなどに参加していたが、内容が医療機器の開発ばかりで少々嫌気がさしていたところだった。しかし、さすがにお世話になっている団体からの推薦と言うこともあり、仕方なく参加した。

5月のセミナーでNPO 福祉用具ネットが紹介された。

当初「へー、NPO がなぜ登壇するんだろう？」と興味を湧いた。なぜなら私の行ってきた事業も7年間NPOとして継続してきた団体であり、今年、ようやく世にない新規サービス事業が固まり、株式会社化に踏み切った事業体であったからである。

興味を持ちながら見ていると、最初の出だしから“大山節”が炸裂した！

歯に衣着せぬ言い回しで、プロジェクターで映し出される内容は見ようとせず、がんがんと話が進んでいく！

ともすれば、反発を招くような言葉があちこちに

ちりばめられているにも関わらず心地いい……。

これは、多分、大山さんが上から目線の“指導”という思いではなく、今と未来で起こる、または起こっている問題について、現場を知っている者として介護現場で働く人に分かって欲しい、伝えて欲しいという強い思いが人の心を揺り動かしているのだろう。と私は思っている。

この発表を聞いたとき「この人と名刺交換する！」と私は勝手に決めた。もちろん、私が田川に住んでおり、同郷の思いがあったことも否定はしない。

医療機器や福祉用具が自分の事業には関係がないものということを理解しつつも、どうしても話してみたかった。

名刺交換の列に並び、自分の番が来たとき、名刺を出しながら「私も田川に住んでいるんです。今度、遊びに行っても良いですか？」と切り出した。

大山さんは微笑みながら「あー、じゃあ今度寄って下さいね！」と答えて頂いたので、「いいんですか？私、本気でいきますよ！」と思わず念押しまでしてしまった。

2週間後、私は頂いた名刺から電話でアポを取り、訪ねていくこととした。私としては、今世にないサービスを今後展開していく事へのベンチャー企業としてはありがちな不安などを、少し元気を分けて頂く事で明日へのステップにしたい！くらいの軽いのりで訪ねているつもりだった。

ノックし部屋に入ると、人の良さそうな男性がちょこんと右側にノートを開いて座っており、大山さんからイスを勧められて座り、机をはさんで向かいの席に御自身も座られた。

これが、坂田さんとの初めての出会いである。

そして、挨拶もそこそこで大山さんから切り出されたのは、「今やっている仕事を説明して下さい。」というものだった。

「へ……？」と意外に思い、大山さんからの説明を聞いていると、私が7年やってきたNPOの活動について、かなり調べている事が分かった。

「これは気取ったって仕方がない。」と腹をくくり、事業を始めた思いや儲かっていない現状など4時間にわたりつつみかくさず全てを説明していった。話し終えた後、開口一番、坂田さんから言われたのは、「面白い！このサービスをHAMIQ事業の一つとして推薦出来ないかな。」というものだった。

その時知ったことなのだが、福祉用具ネットさんがHAMIQにも関わっており、坂田さんがHAMIQが行

う新規事業開拓のサービス部門のコーディネーターであるということだった。

はじめ私は、自分で考え実行しようとする事業が認められた喜びよりも、この小さな、お世辞にも決して広いとは言えない事務所のたった二人のメンバーで、どこをどうやったらこんな大きな事業に携わり、実行していくことが出来るのか。その方が驚きだった。

私も一般的に NPO がどういうところか知っているつもりでいた。中には大手企業と組んで援助を受けながらいろいろやっているところがある事も、自分がそこにいたことから十分理解している。

また、大山さんのセミナーで、この NPO がいろいろな大手企業とも関わりがある事も知っている。しかし違う、何かが…。

この出会いから、私は、2 週間と空けずにここを訪れている。もちろん、HAMIQ に推薦頂くためのアドバイスを頂く事も目的の一つだが、このお二人がどういう思いでこの事業をしているのか、どうなることを望んでいるのかを知りたいという欲求が強いように思う。そして、分かったことが一つある。

大山さん、坂田さんが行っている事は、企業が事業として行ってもおかしくないぐらいの専門性を持ち、大山さんの行っているものは、まさしくコンサルであり、対価に換算するならいくら取られるものなのか、うちのような小さな企業では絶対に払えない金額となることは明らかである。

また、坂田さんの行っているコーディネーターと同じような仕事をしている企業を私は数社知っている。それを、手数料も取らず、また、ここまでしてくれるの？と言うところまで関わって頂いている。

わたしは、これまで受けた、また、これから受けることになるご恩をどう返していけばいいのか…。

私自身が企業コンサルやそれに携わる方々の世界で学んできた人間だからこそ感じる事なのかもしれないが、この実績から普通に要求される対価で事業を行っていたのなら、相当な利益を上げていておかしくないところである。

それでも、大山さんに私が入会した際に頂いた言葉が忘れられない。「会員になって頂いたなら、なにがしかの形で会員の利益になる事を考えないといけない。そうしないと会員を続けて頂けないでしょ！」と…。私からすればどれほど人がいいのか計り知れない…。

でも、だからこそみんながこのお二人の人柄に心を寄せ、利害抜きで手伝いに来てくれる環境が整備されてきたのだろう。

数度ではあるが手伝いに来ている方々をみるときに、皆が手伝いをすることを我先にと競って行っているようにも感じられた。

私もこのご恩を少しでもお返しするために、出来るだけのことでお返ししたい。

もっとも私が行う一番の恩返しは、私が現在手がけている事業を成功させることこそが一番の恩返しである事は分かっているつもりである。

でも、それだけではなく、これから多くの活動でお手伝いをさせて頂けるものに対してはお手伝いをしながら、お二人の思いや考えを学ばせて頂き、長くお付き合いをさせて頂くことこそが、私の望みである。

福祉機器展が始まる 2 日前に伺った際、何か私に出来る事があれば言ってお下さい。何でもやりまからと伝えたが、私としては 4 日間張り付ければ、それをお許し頂けるかどうか。その反応を窺うために放った言葉だった。そしてその際、張りついていいよと了解を頂いた気がした。私の勝手な思い込みなのかもしれないが…。

そこから来週で済む打ち合わせ等は全て引き延ばし、4 日間出来るだけ張りつくことを決心した。(1 件だけは、現在進めている大切な打ち合わせだったので外せなかったが…。)

それが、冒頭での滑り出しの失敗に繋がって来たのである。

西日本総合展示場に到着後、張り紙作業からはじまった。粛々と作業を進めながら、ここで私は、お二人のこれまで築き上げてきた実績と実力を目の当たりにすることとなる。

1 つ目は、福祉用具ネットが持っているブースの広さである。そして、大山さんが最初の企画段階から携わり準備をすすめてきているということで御自身が開発等に関係した企業へ渡していること。

2 つ目は、今更ながらではあるが、交流の広さである。大学の先生から企業、官公庁、各協議会関係者等々、本当にいろいろな方が挨拶に来られていたこと。そして、その方々へ企業の大小、地位の上下に関わらず、いつも同じように接しておられるところを見るにつけ、大山さんの剛腹さ、繊細さが伝わってくる。

開催当日、2 日目と下元先生のセミナーが開催され、そのお手伝いに私も加わった。

私は知らなかったが、大山さんから有名な先生である事は聞かされていたので、それ相応の覚悟はしていたつもりであったが、申し込みが 70 名程度だったため、それくらいかと思っていたが甘かった！

申し込んでいない方が 100 名程押しかけ、イスが足らず急遽 60 脚を追加で運び込むこととなった。

改めてすごい先生なんだと確認させられるエピソードだった。もちろん中のセミナーも素人の私が見ても面白く、移乗技術等々興味深く聞くことが出来た。(最後の 30 分で実習を行うが、その時、坂田さ

んがカメラを片手に奮闘されていたのが印象的だった。) また、この先生を依頼されたのも大山さんとのことだったので、ここでも大山さんの偉大さを感じたところである。

3 日目松尾先生のお話を聞いていた。話の中身も勉強になることが多かったが、何度も「ここには最新の福祉機器が揃っています。どうか皆さん見るだけではなく、体験してみてください。」と言っておられ、このイベントの持つ意味を多くの方に分かって頂きたいという思いが強い内容だったように感じた。

この 4 日間、お二人はほとんど座らず、初日、2 日目は昼食も取れない忙しさだった。

改めて、運営側の忙しさを感じずにはいられなかった。私は、大した役にも立てず 4 日間を過ごした。

その中で最も気になったのが、私のわがままで 4 日間張りつかせて頂いた事が、かえってお二人の御迷惑になったのではないかと感じずにはいられない。

同時に、これほどの実績と実力、そして何よりいろいろなパイプを持つ NPO 福祉用具ネットという存在がいつまで存続できるのか。

何度か大山さんの口から「ここまで続けてきたこの組織を潰したくない。」という言葉が漏れていたのを聞いている。

今回初めて参加させて頂いた、私や(株)スリーダインなど、これからもお二人を頼ってくるものは、

後を絶たないだろう。

私自身は素人であり、今の力のなさを嘆くしかないが、前を向き実力をつけ、少しでもお手伝いが出来るような存在までなっていきたいと考えている。

そして、それを考えているのは私だけではないはずだ！

一人では何も出来ないかもしれないが、どうしていくことが、お二人にとって、お二人を慕う全ての方にとって、最も良いのかを一緒に考えていくことが重要だろう。

今回、大山さんから 50 という節目の号で、何か書いて欲しいとの御依頼を頂いた時、私で良ければと言うことでお受けしたが、福祉器具や介護分野においては全くの素人である私が、専門的な話は書けるはずもないことであったので、NPO 福祉用具ネットと大山、坂田というお二人の存在を、知り合っ間もない私の視点から表現させて頂いた。

私は学識もなく、表現力にも乏しいものであるため、誤解を招くような表現や記述もあるかもしれないが御容赦頂きたい。

最後に、今回このイベントに 4 日間参加させて頂いて、安川電機のロボットが作るアイスクリームを買うのが恥ずかしくて食べられなかったことが少し心残りであった。

事務局だより

＜10 月から 12 月までの事務局のうごき＞

10 月 東京国際福祉機器展

- 10 月 1 日～3 日 東京国際福祉機器展
- 10 月 4 日～5 日 情報誌発送準備
- 10 月 6 日 熊本県医工マッチングセミナーパネラー
- 10 月 8 日 事例相談
- 10 月 9 日 開発相談 (東京)
- 10 月 10 日 福岡県との打ち合わせ
- 10 月 14 日 事例相談 開発相談
- 10 月 15 日 事例訪問 2 件 (福岡と佐賀)
- 10 月 17 日 開発相談
- 10 月 20 日 開発相談 (東京)
- 10 月 22 日 開発相談
- 10 月 23 日 開発相談 2 件
- 10 月 24 日 事例訪問 (福智町) 福祉用具研究会
- 10 月 27 日 開発相談
- 10 月 28 日 開発相談
- 10 月 29 日 開発相談 2 件

11 月 西日本国際福祉機器展

- 11 月 1 日 開発相談
- 11 月 2 日 事例相談
- 11 月 4 日 開発相談 (東京)
- 11 月 5 日 西日本国際福祉機器展準備

11 月 6 日 設営

11 月 7 日～9 日 西日本国際福祉機器展

11 月 10 日 片づけ 事後処理

11 月 13 日 事例相談

11 月 14 日 開発相談

11 月 17 日 開発相談 (長崎)

11 月 21 日 福祉用具研究会

11 月 25 日～28 日 東京・岐阜へ (排泄ケア研修)

12 月

情報誌ささえ 50 号発行準備

12 月 4 日 事例相談

12 月 6 日 第 3 回交流会 忘年会

12 月 8 日 開発相談 (東京)

コンサル事業 4 件

毎日、開発や事例の電話相談・メール相談も多数あります。

9 月にホームページを全面リニューアルしています。「事務局長のブログ」コーナーも新しく開設し、毎日更新中。一度覗いてみて下さい。

ホームページの新しいアドレスは表紙に記載

「NPO 福祉用具ネット」で検索でも良いです。ブログは、TOP ページの左上の「事務局長のブログ」をクリックして下さい。